Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 22第21号
2022年（令和四年） 9月2日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

8/11～8/24のNYMEX・WTI先物市場は、86.53～94.89ドルの範囲で推移した。

8月25日は、最終段階の米・イラン間の核合意再開交渉の合意成立によるイラン産原油の貿易再開観測から反落した。さらに、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の講演を前に売り買いが交錯したが、積極的利上げ方針堅持の内容との見方が大勢で、景気後退懸念から、値下がり要因となった。10月限の終値は前日比2.37ドル安の92.52ドル。

週末26日は、前日、パウエル議長講演だけでなく、欧州中央銀行（ECB）等他の中央銀行総裁等からも積極的利上げ堅持の発言が相次ぎ、弱含んだが、この日、欧州天然ガス価格は史上最高値を記録、石油への波及懸念から反転上昇、また、UAEから、22日のサウジの減産示唆の支持発言もあり、反発した。10月限の終値は前日比0.54ドル高の93.06ドル。

週明け29日は、先週に続き、ロシア産天然ガスの供給懸念、OPECプラスの減産観測、加えて、27日に内戦状態のリビア・トリポリで発生した東西両勢力による民間人を巻き込んだ軍事衝突に伴うリビア原油の供給不安によって、大幅続伸した。10月限の終値は前日比3.95ドル高の97.01ドル。

30日は、欧州中央銀行（ECB）の利上げ観測、先日のパウエル議長講演など欧米の景気後退懸念が拡大、3営業日ぶりに大幅反落した。イラク・バグダットにおけるスンニ派指導者引退表明を契機とした新イランのシーア派勢力との衝突で緊張が高まったが、国営石油会社の現段階で影響はないとの発表で大きな影響はなかった。10月限の終値は前日比5.37ドル安の91.64ドル。

31日は、中国の8月の景況指数の悪化など、世界的な景気後退懸念の高まりで続落、節目の90ドルを割り込んだ。先週末の米国原油在庫は予想を上回る取り崩しであったが、大きな影響はなかった。なお、9月5日開催のOPECプラスの行方に注目が集まっている。10月限の終値は前日比2.09ドル安の89.55ドル。

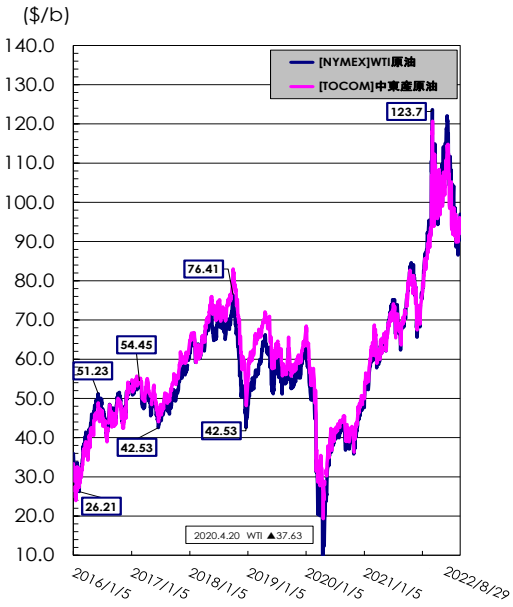
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）は、8月11日～24日の間、91.30～99.10ドルの範囲で推移した。8月25日99.90ドル、26日100.30ドル、29日99.80ドル、30日102.90ドル、31日97.40ドルで推移した。

為替は、8月11～24日の間、132.97～137.30円の範囲で推移した。8月25日136.98円、26日136.76円、29日138.34円、30日138.57円、31日138.63円で推移した。

財務省が8月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、97,989円で、前旬比1,603円安、ドル建て113.65ドルで前旬比1.85ドル安、為替レートは1ドル/137.09円だった。

そのような中で、8月29日時点の価格は、ガソリンが前週比0.5円の値下がり、軽油も同0.5円の値下がり、灯油は3円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は168.5円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は37.1円となった。

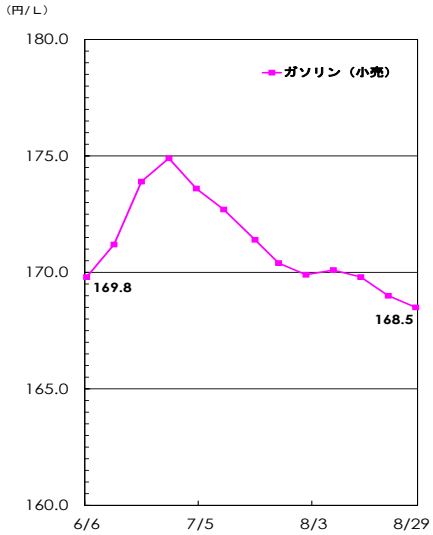
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	8/21 ～ 8/27	3,283	▲ 36	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	85.3	▲ 0.9	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	8/27	9,374	▼ -289	▼ －
価格	中東産原油（TOCOM）	（$/bbl）	8/29	95.20	▲ 2.78	▲ 25.9
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	8/29	97.01	▲ 6.78	▲ 27.8
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	8月上旬	113.65	▼ -1.85	▲ 39.87
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	97,989	▼ -1,603	▲ 46,992
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	137.09	▼ -0.02	▼ -27.20
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	8/29	139.34	▼ -1.17	▼ -28.60



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		8/21 ～ 8/27	910	▼ -73	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	743	▼ -70	▼ –
	輸出		〃	36	▼ -56	▲ –
	在庫		8/27	1,524	▲ 131	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	8/23 ～ 8/29	79.1	▲ 1.6	▲ 14.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/23 ～ 8/29	80.0	▲ 4.8	▲ 16.1
		(TOCOM/中部)	8/29	76.0	▼ -1.5	▲ 11.3
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/29	168.5	▼ -0.5	▲ 10.7

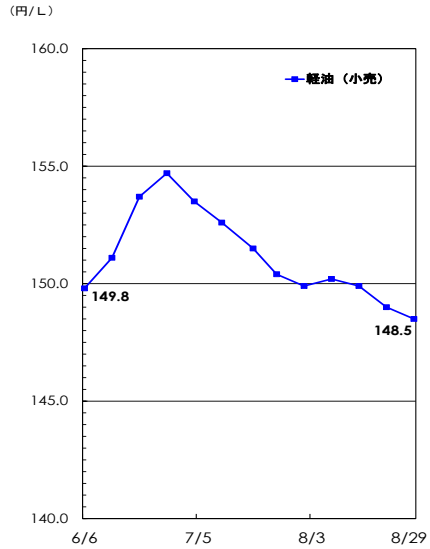
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

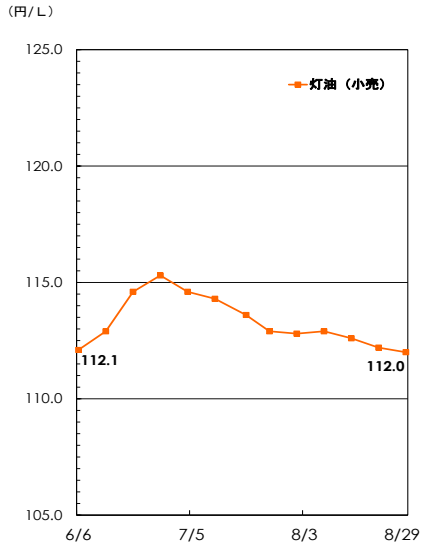
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		8/21 ～ 8/27	802	▼ -55	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	643	▲ 183	▲ –
	輸出		〃	186	▼ -26	▼ –
	在庫		8/27	1,477	▼ -27	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	8/23 ～ 8/29	74.4	▼ -0.3	▲ 9.0
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/23 ～ 8/29	79.2	▼ -0.2	▲ 13.7
		(TOCOM/中部)	8/29	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/29	148.5	▼ -0.5	▲ 10.7

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		8/21 ～ 8/27	122	▼ -62	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	90	▲ 46	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	▲ –
	在庫		8/27	1,905	▲ 31	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	8/23 ～ 8/29	74.7	➡ 0.0	▲ 9.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/23 ～ 8/29	78.7	▲ 3.8	▲ 17.5
		(TOCOM/中部)	8/29	74.5	➡ 0.0	▲ 12.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/29	112.0	▼ -0.2	▲ 14.6



■ 関連情報

1　海外/原油

今週の石油先物市場は、週末から週初めにかけ、サウジの減産示唆発言で、堅調に始まったが、世界的な景気後退懸念の拡大で軟化、90ドルを割った。WTI先物の終値は25日の92.52ドルから、31日の89.55ドルと推移した。

8月31日発表の26日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週比330万バレル減と市場予想を上回る取り崩しであった。

EIAによると、8月29日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.3セント値下がりの1ガロン3.827ドル（142.0円/㍑）と11週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比20.6セント値上がりの1ガロン5.115ドル（180.5円/㍑）と10週ぶりの値上がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、8月26日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比4基増の605基と2週ぶりの増加となった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2022年8月21日～8月27日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は328.3万klと、前週に比べ3.6万kl増加。前年に対しては29.0万klの増加。トッパー稼働率は85.3%と前週に対して0.9ポイントの増加、前年に対しては7.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットが増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.4%減、ジェット/31.6%増、灯油/33.9%減、軽油/6.4%減、A重油/0.4%減、C重油/9.0%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比4.5万kl減）。軽油の輸出は18.6万kl（前週比2.6万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でガソリン、ジェットが減少、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は74.3万kl（対前週8.6%減）と3週連続で減少した。ジェット5.7万kl（対前週34.9%減）、灯油9.0万kl（対前週106.8%増）、軽油64.3万kl（対前週39.9%増）、A重油16.4万kl（対前週40.9%増）、C重油28.7万kl（対前週36.3%増）。

（単位：千KL）

	今週 (8/21 ~ 8/27)	前週 (8/14 ~ 8/20)	前週比	
ガソリン	743	813	▼ -70	(-9%)
ジェット燃料	57	87	▼ -30	(-34%)
灯油	90	44	▲ 46	(105%)
軽油	643	460	▲ 183	(40%)
A重油	164	116	▲ 48	(41%)
C重油	287	211	▲ 76	(36%)
合　計	1,984	1,731	▲ 253	(15%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

8月27日時点の在庫はガソリン、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは152.4万kl、前週差13.1万kl増。前年に対しては5.4万kl少ない。

灯油は190.5万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては24.9万kl少ない。

軽油は147.7万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては31.2万kl少ない。

A重油は69.4万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては4.2万kl少ない。

C重油は167.4万kl、前週差10.7万kl減。前年に対しては23.8万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (8/27)	前週 (8/20)	前週比	
ガソリン	1,524	1,393	▲ 131	(9%)
ジェット燃料	843	855	▼ -12	(-1%)
灯油	1,905	1,874	▲ 31	(2%)
軽油	1,477	1,504	▼ -27	(-2%)
A重油	694	701	▼ -7	(-1%)
C重油	1,674	1,781	▼ -107	(-6%)
合　計	8,117	8,108	▲ 9	(0.1%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

8月23日～8月29日の指標原油価格は前週比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは、8月分の中東原油の調整金引上げの転嫁もあって、9.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額32.4円を加えたコスト上昇額41.4円に、補助金37.1円（計算上39.3円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助）が支給されることから、次週（9/1～9/7）の元売会社の実質的な卸価格は4.3円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

8月23日～29日の製品スポット市況は、8月16日～22日平均と比べ、陸上・灯油の横ばい、全ての軽油取引の値下がりを除いて、他の取引・油種で値上がりした。

直近週（8/23～8/29）の陸上スポット価格平均値は、前週（8/16～8/22）比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.3円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（8/23～8/29）に、前週（8/16～8/22）比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは4.8円の値上がり、灯油は3.8円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

（RIM）　（単位：円/㌔ℓ）

[陸上ローリー 4地区平均]	今週　(8/23 ~ 8/29)	前週　(8/16 ~ 8/22)	前週比
スポット価格 レギュラー	79.1	77.5	▲ 1.6
灯油	74.7	74.7	➡ 0.0
軽油	74.4	74.7	▼ -0.3

（TOCOM）　（単位：円/㌔ℓ）

[期近物/終値] 〔平均〕	今週　(8/23 ~ 8/29)	前週　(8/16 ~ 8/22)	前週比
先物価格 レギュラー	80.0	75.2	▲ 4.8
灯油	78.7	74.9	▲ 3.8
軽油	79.2	79.4	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値　（8/23～8/29実績値）　（単位：円/㌔ℓ）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.6	▲ 4.8	▲ 3.2
灯油	➡ 0.0	▲ 3.8	▲ 1.9
軽油	▼ -0.3	▼ -0.2	▼ -0.3
A重油	▼ -0.4		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

8月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の168.5円、軽油も同0.5円安の148.5円、灯油は18㌔ℓベースで同3円安の2,016円（1㌔ℓベースでは同0.2円安の112.0円）。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは2県、横ばいは1県、値下がりは44都道府県だった。全国最安値は宮城県の159.5円、その次は埼玉県の161.5円であった。他方、最高値は長崎県の182.6円だった。最も値上がりしたのは佐賀県（前週比0.3円高）、横ばいは高知県、最も値下がりしたのは神奈川県（同1.4円安）だった。

次回調査時（9/5）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

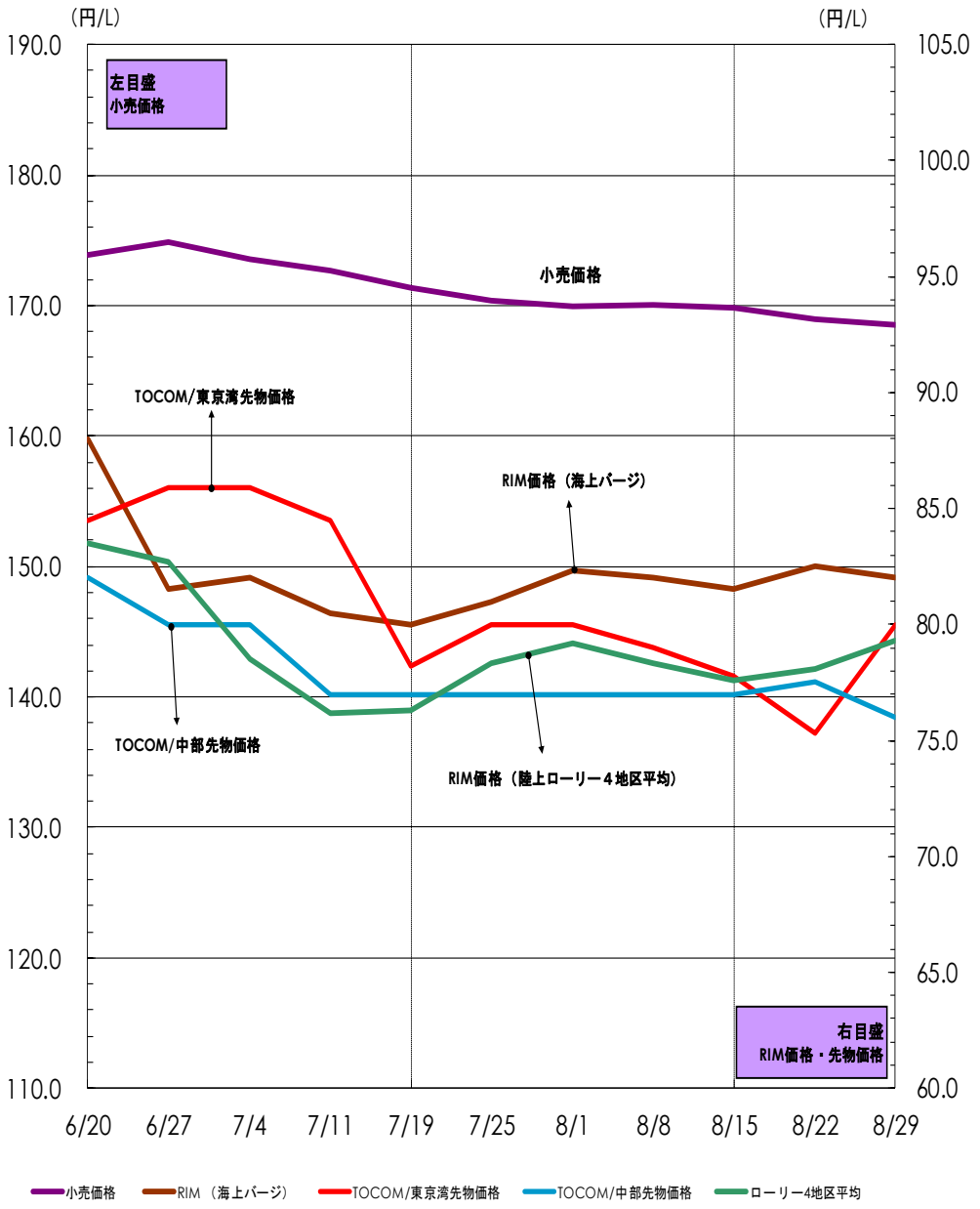
（単位：円/㌔ℓ）

（資エ庁公表）[週動向]	今週　(8/29)	前週　(8/22)	前週比	直近高値	
小売価格 レギュラー	168.5	169.0	▼ -0.5	08/8/4	185.1
灯油	112.0	112.2	▼ -0.2	08/8/11	132.1
軽油	148.5	149.0	▼ -0.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/6/20　～　2022/8/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2022第22号）の公表は、9/9（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。